

第 126 回 火力専門委員会 構造分科会 議事録

- I. 日 時：2024 年 11 月 8 日（金）13 時 30 分～16 時 20 分
- II. 方 法：対面+Web による会議（Webex 使用）
- III. 出席者：西田（三菱重工）、茂山（電中研）、栗本（JERA）、飯田（JERA）、大熊（関西電力）、
金城（沖縄電力）、井山（東芝 ESS）、菊山（三菱重工）、須間（三菱重工）、
湯原（配管技術研究協会）、菊地（IHI）、羽生（富士電機）、土蔵（川崎重工）
事務局：中村

IV. 資料（CS キャビネット 構造分科会会議資料登録）

- 126-1 第 125 回構造分科会議事録（案）
- 126-2 構造分科会委員名簿
- 126-3 第 109 回火力専門委員会議事録（案）
- 126-4 第 111 回規格委員会議事次第（案）
- 126-5 規格委書面投票 No.648（基本規定改定案の承認）の結果
- 126-6 202X 年版基本規定 参考資料引用状況一覧 改定用(集約)
- 126-7 規格委書面投票 No.648（基本規定改定案の承認）の意見対応案
- 126-8 2028 年版（仮）発電用火力設備規格（詳細規定_第Ⅲ章_ボイラ）レビュー表
(PG-1～30)
- 126-9 2028 年版（仮）発電用火力設備規格（詳細規定_第Ⅲ章_ボイラ）レビュー表
(PW-26～44)
- 126-10 JSME 火力 2028 年版（仮）反映必要用語_20241023 時点

V. 議題

1. 前回議事録確認 【資料 126-1】
前回議事録（案）の確認を行ない議事録案は承認された。
2. 分科会委員・役員の承認 【資料 126-2】
 - （新任）なし
 - （退任）なし
 - （再任）なし
3. 報告事項 【資料 126-3】
 - (1)火力専門委員会報告
8 月 28 日開催の第 109 回火力専門委員会の主要項目が報告された。
 - 構造分科会委員の承認 （新任）土蔵氏
（退任）横山委員
（再任）なし
 - 第 125 回構造分科会（8/8）の報告
 - 書面投票結果報告

- ・火専書面投票 No.101（基本規定改定案の承認）の可決

○審議事項

- ・火専書面投票 No.101（基本規定改定案の承認）の意見対応案の承認

- ・材専 書面投票 No.62「J NCF141TB に関する事例規格案レビュー」の意見対応案の承認

(2) 規格委員会報告

【資料 126-4】

9月26日開催の第111回発電用設備規格委員会の議事のうち、火力関連事項に関して報告された。

- 火力専門委員会審議（発電用火力設備の基本規定改定案の書面投票の提案）
- 火力専門委員会報告

(3) 規格委書面投票 No.648(基本規定改定案の承認)の結果報告

【資料 126-5】

委員総数 27 名の 3 分の 2 以上である 26 票の賛成票があり可決
一部意見対応回答内容を意見者にて確認中

4. 審議事項

(1) 202X 年版基本規定 参考資料引用状況一覧 改定用(集約)

【資料 126-6】

基本参考資料の引用状況一覧表について確認をおこなった。メールにて各委員に確認依頼を行った結果を内容に反映しているが、更にご意見・コメントがある場合は主査に連絡することとした。

(2) 規格委書面投票 No.648（基本規定改定案の承認）の意見対応案

【資料 126-7】

主査より書面投票に対する意見対応案を提示。項目の半数は意見者のご了承取得済。一部意見対応の回答内容を意見者の確認待ち。

(3) 2028 年版（仮）発電用火力設備規格（詳細規定_第Ⅲ章_ボイラ）レビュー表【資料 126-8,9】

レビュー表の審議に先立ち、主査より改訂作業の審議予定が提示され、2025 年 8 月以降の審議予定の対象ファイル数が多いことから、8 月以降の審議分を可能な限り 2025 年 2 月、5 月の審議に前倒しすることが提案された。

＜レビュー表 PG1～30：須間委員（MHI 空）＞

【資料 126-8】

内容は以下の通り

- ・全般：用語の反映。用語集（資料 126-10）を参照のこと。項の追加。
- ・PG-5.6.2：溶接後熱処理温度範囲の変更が技術的内容の変更となるため、変更の背景を調査すること。
- ・PG-8.4.1.2：「pressure relief valve」の和訳を「加圧逃し防止弁」としたが、用語集を参照し「圧力逃し弁」に変更。また、火技解釈では「安全弁」を用いており、用いる規格（装置）、内部流体の種類でも用語が変わるとのご意見があったため、JIS の表現も確認する。
⇒（分科会後確認）JIS では安全弁、圧力逃し弁の表現有り。定義としては、安全弁は安全を確保するための装置、圧力逃し弁は異常な圧力を回避する装置。用語としては Safety valve=安

全弁、Pressure relief valve=圧力逃し弁としている。

- PG-9.1：SA350 について ASME に新たに記載された材料を JSME 改訂版に反映されるか材料分科会に確認する。
- PG-18：JIS 呼びみ年度版⇒現状の最新年度版とする。
- PG-20.1：「PG-20.1 項及び・・・・材料条件をもとに要求が定義されるとみなすこと」を「PG-20.1 項及び・・・・ボイラでの使用箇所、歪み及び材料条件に基づく要求事項を定義する」に表現を修正。
- PG-20.1.2(c)：「冷間曲げの接線間の 100%を超える範囲において」の表現の見直し検討
- PG-20.2：「table PG-20 項」を「表 PG-20」に修正。
- PG-21：設計圧力及び最高許容運転圧力の説明については総則補遺も参考に構成検討する。

＜レビュー表 PW26～44（PW-39 は次回実施）：西田委員（MHI ボ）＞【資料 126-9】

- PW-28.1.3：QG の項が呼び込まれているが、取入について溶接分科会に確認のこと。
⇒（分科会後確認） 2011a 以降で ASME SecⅢの構成も変わっており、QG 項は一般項目であり、溶接分科会にて取入予定とのこと。
- PW-38.2：ASME Mandatory Appendix を直接呼込んでいるがセクションを確認のこと。（取入有無）
- PW-40.3.4：QW-462.12 の取入について確認のこと。
- PW-43：PG-56 へ移動しているため、PG-56 のご担当にて反映願う。
- PW-39：次回審議とする。

5. 次回開催予定

開催日時： 2025 年 2 月 7 日（金） 13 時 30 分～17 時

開催方法： Web（一部対面）による

以 上